

協働パイロット事業 (H28) 企画提案書

団体名： 清水おやこ劇場

1 事業の名称

竹の魅力再発見 “バン部一” 始動!

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください)

課題テーマ『竹の新たな活用法について』(放任竹林対策の促進)

清水おやこ劇場は、生の舞台芸術を鑑賞し、自然の中で体を動かして体験することで、子どもたちの想像力と創造性が養われ、心豊かに育つことを願って45年間活動しています。

その活動の一環として、毎年夏のキャンプを清水区大平で行っています。地元の方に竹を切り出していただき、自分たちで節を取り、流しそうめんをするのが恒例の楽しみとなっています。

これまで「竹」について、本気で考えたことのない私たちでしたが、今回の課題テーマを拝見し、「竹材の利活用が進み、美しい里山景観が守られ、後世に引き継ぐこと」の大切さ、重要性に改めて気付くことができました。

そもそも日本人にとって、竹は生活の大切な構成要素であり、日常的な道具としてばかりではなく、尺八や竜笛、笙、箏など、日本古来の楽器の素材としても、その多くが使われてきました。

私たちは、これまでの活動実績や、自分たちの得意分野である芸術の面からのアプローチにより、子どもたちに竹とふれあう機会を多く提供し、竹の魅力を再発見する『温故知新』の観点で、竹の利活用を増やす仕組み作りにつなげていこうと考えています。

(参加対象) 小学校高学年以上 (募集人数) 30名

1. 『竹のことをもっと知ろう。竹ってどんなもの?』 竹のイメージを話し合う。
 - ・既存の竹を使った物、利用法など、思いつくまま挙げてみる。
 - ・1mの竹を手に取り、どんなふうに見えるか、何に使ったら面白いのか、想像力を膨らませてみる。
2. 『現地視察と竹のアート制作』(宿泊体験)
 - ・手入れされている竹林と、手入れされていない竹藪の違いを見て、問題点を考える。
 - ・竹のキャンドル作り。1mの竹を使い、切ったり彫ったりして光の模様を楽しむキャンドルを作る。夜、キャンドルの中にLEDライトを入れ、灯りを楽しむ。
 - ・竹で樋や器、箸などを作り、流しそうめんを楽しむ。
3. 『竹楽器作りワークショップ』 竹で楽器を作ろう。オリジナル楽器を作り、演奏してみる。

※ 次年度、プロの竹の音楽家を招いてコンサートを開き、より多くの方が竹に親しむ機会をつくりたいと考えており、竹の温かい響きを通して、竹の魅力と自然の大切さを伝え、放任竹林や里山の問題を身近に感じられるようにしていきたいです。

また、将来、このような問題に取り組む子どもが出てくるきっかけになることも期待しています。

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

(清水おやこ劇場が担う役割)

- ・参加者募集。
- ・子どもたちに問題提起をして、竹について学ぶ機会を作る。
- ・楽器作りの講師選定。
- ・芸術面からアプローチすることで、竹に魅力を感じ、親しめるように働きかける。
- ・子どもたちの自由な発想から、竹の新しい可能性を見いだすきっかけづくりをする。
- ・活動場所、宿泊場所、移動手段等の確保。
- ・安全面での見守り。

以上、放任竹林問題解決の手掛かりとなる役割を担う。

(静岡市に担ってほしい役割)

- ・静岡市における放置竹林の現状を伝える、講師派遣。
- ・竹林の現地見学場所の紹介、及び、現地ガイド。
- ・竹等の材料提供。
- ・竹の扱い方、道具の使い方等の指導。

4 事業計画・実施スケジュール

- 平成 28 年 7 月上旬 契約締結
参加者募集開始
- 7 月中旬 環境保全課担当者との打ち合わせ
- 7 月下旬 第 1 回 講座開催
『竹のことをもっと知ろう。竹ってどんなもの?』 竹のイメージを話し合う。
- 8 月上旬 現地視察の下見、及び 担当者、放置竹林についての講師との打ち合わせ
- 8 月中旬 宿泊体験参加者事前交流会
- 8 月下旬 第 2 回 講座開催 『現地視察と竹のアート制作』(宿泊体験)
- 9 月中旬 宿泊・アート制作の事後交流会
- 10 月中旬 竹楽器の講師と打ち合わせ
材料、道具等の準備
- 11 月上旬 第 3 回 講座開催 『竹楽器作りワークショップ』
オリジナル楽器を作り、演奏してみる。
- 12 月上旬 竹楽器作りワークショップの反省会
- 12 月末 事業終了に伴い、実績報告書の作成

団体名： 清水おやこ劇場

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

《実施体制》

担当業務	氏名	団体役職	備考
全体統括	鈴木 周代	運営委員長	
全体事務局	中野 みどり	事務局長	
本講座事務・会計	足立 雅子	高学年部担当 元運営委員長	キャンプインストラクター
本講座スタッフ	水崎 郁美	高学年部担当 元運営委員長	まある運営協議会委員 静岡フィルハーモニー管弦楽団団員 城内カウンセリング研究会会員
スタッフ	酒井 みどり	例会部担当	
講師	保科 哲也		朝霧野外活動センター職員 静岡県キャンプ協会理事
ワークショップ講師	柴田 旺山		尺八・横笛ソリスト 竹楽団バンブーシンフォニア主宰

その他、ボランティアスタッフとして、5名程度が参加予定

6 特にアピールしたいこと (専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など)

《実績・専門性》

45年間、プロによる本物の舞台芸術を観続け、芸術を通して子どもたちの想像力や創造性、表現力を高めていく活動をしています。

プロの舞台芸術家たちとの交流があるので、よりよい講師派遣や、実践へのアドバイスを受けることができます。

《独自性》

芸術や表現の視点から竹の問題にアプローチします。

私たちが持っていない、竹の実用性や扱い方のノウハウを持っている人たちと共に活動することで、竹を身近な楽しいものと感じる第一歩にできると考えています。

《先駆性》

世界に誇れる竹の文化を、子どもたちに伝えるところから始めます。

竹を利用したキャンドルや楽器の作り方を指導し、実践しているところはありませんが、作り方を押し付けず、子どもたちの自由で柔らかな感性と想像力に任せてオリジナル作品を作り、竹の文化を楽しむことを第一にします。

《継続性》

竹の楽器作りワークショップの講師には、東京芸大を卒業したプロ演奏家を予定しています。

来年度は、講師による『竹の音楽会』を開催し、温かくてどこか懐かしい響きの竹楽器の魅力をより多くの人に感じていただきたいと思います。

また、会場を竹のアートで飾り、手作りした楽器を演奏して、音楽会に参加することを目指します。

今回蒔いた発想の種が芽を出し、将来、この課題解決のための研究や実践に繋げる子どもたちが育つことを期待します。

協働パイロット事業 (H28) 見積書

団体名： 清水おやこ劇場

企画のタイトル： 竹の魅力再発見 “バン部一” 始動！

項 目	金 額	説 明
第2回講師謝金	30,000	1泊2日の野外体験及び講習
講師交通費	3,000	富士宮ー清水 (車移動)
材料費	20,000	工具借り上げ代を含む
会場費	20,000	宿泊込 2日分
交通費	50,000	マイクロバス借り上げ代
第3回講師謝金	50,000	楽器作り講師料
講師交通費	25,000	東京ー清水 (車移動・高速代含む)
工具借り受け料	9,000	300円×30人分
事務経費	24,481	
小 計 A	231,481	
消費税 B=A×0.08	18,518	
合 計 A+B	249,999	

◎実費弁償契約の希望の有無 有 無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金 額	主な使途
第2回参加費	60,000	2,000円×30人
第3回参加費	9,000	300円×30人